

## 狂言学習：リハーサルを行いました（6年生）《NO.2》

11月20日（月）に、平之荘神社で、6年生が、狂言発表会のリハーサルを行いました。



### 【めあて】

- 観客に、自分の声を届ける。
- 私の演技を観てくださいという思いをもって演技をする。  
 （思いをもって演じると、観客の心に必ず届きます）

### 『附子』より

【山口先生より】  
 「よく頑張りました。」



「そりゃ退け」のそを思いっきり出すこと。「さてさて気味の悪いこと」を、もっと強調することばを大事にしてほしい。思い切って、本当に気味が悪そうに言う。台本では、『附子』が砂糖であることを分かる（知っている）けれども、舞台に出ている役者は知らない！『附子』が砂糖であることを知っていたらあかん！だから、なおさら演技手は、気味悪がるように演じるのがポイント。

「向こうから吹く風に当たってさえ、滅却するほどの大の毒」をより強調する。

逃げる時のコツは、背中を絶対に曲げない。膝を曲げて小走りで逃げることです。

逃げ方が、甘いです。この場面も同じです。案外背中を見せる場面が多いです。背中で演技をしてください。

「何とした、何とした。」「何かは知らぬが、黒うどんみりとして、旨そうなものじゃ。」のセリフが、あっさりと言いすぎです。息が荒くなるところです。

「何かは（間）知らぬが、（間）黒うどんみりとして、（間）旨そうなものじゃ。（間）」ぐらい、はあ、はあと息が荒くなりながら言うところです。『附子』と真剣に向かい合っているところです。



相対的に、逃げ方が甘いです。『大の毒』から逃げる感じを表現しましょう。



【山口先生より】「おもしろいです。」



橋掛かりでの立つ位置は、柱と柱の間（真ん中）。  
⊙は、橋掛かりから『附子』を見ている。  
⊙が⊙に声をかけるタイミングは、⊙の動きに合わせて声をかける。  
「や、はや附子を食いよる。」の「や」は、⊙が扇子を口を持ってきたのを見てから発する。2～3口食べてから、「おのれ滅却しようぞ。」を言う。2人のタイミングを合わせるように。  
「旨うてたまらん。」は、うまかったのがよく伝わってくる。



【山口先生より】  
「非常にオリジナリティがあって、あなたたちでないとできない演技をしている。素晴らしいです。」



【山口先生より】  
「まっすぐに向くタイミングがいいです。声も聞こえています。」



「ぐわらりん。」「ちーん」を、大事に発声してほしい。声を思い切って出しましょう。